

不活化ポリオワクチンの接種ができる
市内の医療機関

実施医療機関	電話番号	接種できる日と時間
高橋皮膚科医院 (本町)	74・4155	診療時間内に実施
二宮医院 (本町)	73・2600	月～金 (14:00～15:00) 土 (13:00～14:00)
町野医院 (新船津町)	72・2246	火～土の診療時間内
大城医院 (矢留本町)	73・2427	診療時間内に実施
よこち小児科医院 (上宮永町)	72・1800	診療時間内に実施
甲斐田医院 (西浜武)	72・3435	診療時間内に実施
金子病院 (久々原)	73・3407	月～土の午前中
幾嶋医院 (田脇)	73・3411	診療時間内に実施
津末医院 (久末)	72・2516	診療時間内に実施
古賀医院 (柳河)	72・2207	診療時間内に実施
吉田小児科医院 (垂見)	74・0550	診療時間内に実施
井口こどもクリニック (今古賀)	72・1888	診療時間内に実施
藤野医院 (中島)	76・0011	診療時間内に実施

※市外の医療機関での接種を希望するときは、市健康づくり健康係(☎77・8536)に問い合わせてください。

ポリオの生ワクチンと不活化ワクチンの
主な違い

	生ワクチン	不活化ワクチン
主成分	弱毒性の生ポリオウイルス	不活化ポリオウイルス由来
ワクチン接種によるウイルスの排出	便中に約1か月間排出される	排出されない
ワクチン関連まひを発生	ごくまれにワクチン関連まひを発生	なし
接種方法	経口投与	皮下注射
接種回数	2回	4回(初回3回、追加1回)
接種場所	集団接種	個別に医療機関で接種

また、接種回数も生ワクチンは2回でしたが、不活化ワクチンは初回接種3回、追加接種1回の合計4回になります。なお対象年齢は生後3か月から90か月未満で変更はありません。接種間隔など詳しいことは8ページの表をご覧ください。

**11月からの4種混合ワクチン
を待たず予防接種は適期に**

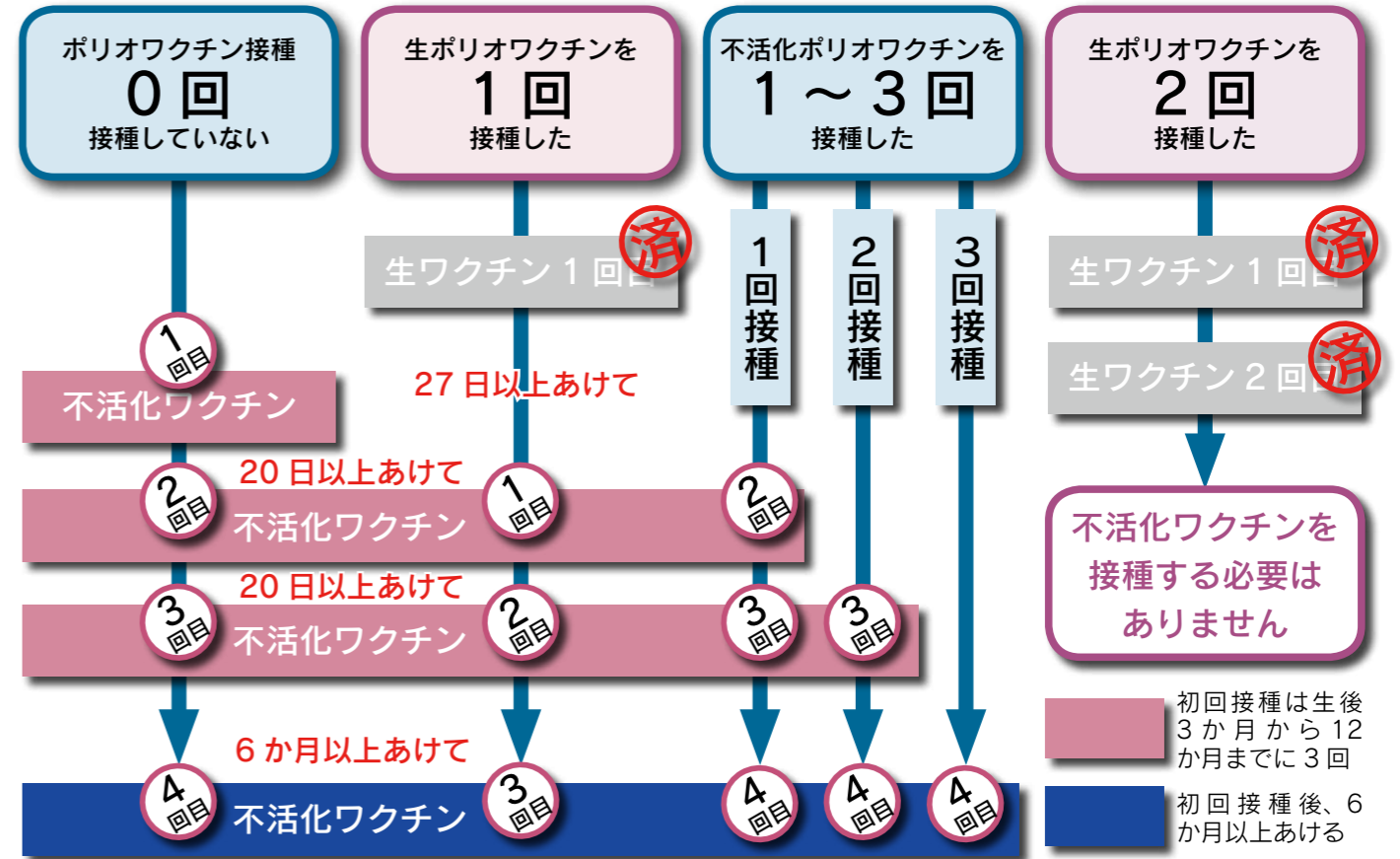
現在の3種混合ワクチン(ジフテリア、百日せき、破傷風)に、不活化ポリオワクチンを加えた、4種混合ワクチンが導入される予定です。実施時期

は今年11月が見込まれています。ただし、3種混合ワクチンの接種時期を迎えた人は、4種混合ワクチンの開始を待たず、計画通り接種してください。乳児が百日せきにかかる重篤化し、命に関わることもあります。生後3か月を過ぎたら、できるだけ早く免疫をつけることが大切です。

ポリオワクチンに関する情報は、厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/index.html>)に掲載されています。

問い合わせは、市健康づくり健康係(☎77・8536)まで。

これまでに接種したポリオワクチンの回数ごとの今後の接種方法



※9月1日の導入時点では、4回目の追加接種は定期接種の対象外です。現在、国内臨床実験を実施中で、データが整い次第、導入される予定です。

ポリオ予防接種
9月1日から
不活化ワクチンに
かわります



予防接種が
ポリオ唯一の予防方法

ポリオは「小児まひ」とも呼ばれ、ポリオウイルスが引き起こす感染症です。ポリオウイルスは、主に腸の中で増殖し、増えたウイルスは便の中に排出されます。この排せつされた便を介して、人から人へと感染します。

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあらわれず、知らない間に免疫ができてきます。しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足にまひがあらわれ、そのまひが一生残ってしまうことがあります。

副反応の心配が少ない
安全な不活化ワクチンに変更

これまでポリオの予防接種で使ってきた「生ワクチン」は、ポリオウイルス

の病原性を弱めてつくったものです。このため、ポリオにかかったときと同じくらいの強い免疫ができます。その一方で数10万回から数百万回に1回の割合で、ポリオにかかったのと同じ症状が出る危険性がありました。

このため安全性を重視し、ポリオウイルスを殺し(不活化)、免疫を作るのに必要な成分だけを抽出した「不活化ワクチン」を使うことになりました。

不活化ワクチンにはウイルスとしての働きはないので、ポリオと同じ症状が出るという副反応はありません。

集団接種から個別接種に
9月の集団予防接種は中止

ポリオワクチンを不活化ワクチンに変更するのは9月1日からです。これにともない接種方法も変わります。これまでの生ワクチンの接種は、集団予防接種でした。不活化ワクチンは医療機関で行う個別接種になります。今年9月と来年3月に予定していた、ポリオの集団予防接種は中止します。

風しんが流行中です

中学1年生から高校3年生は ぜひ予防接種を

近畿地方で流行していた風しんは、7月に入り関東地方で風しん患者が大幅に増加しています。今後全国にさらに広がる恐れもあります。また、はしか(麻疹)は、感染力がたいへん強い感染症です。自分が感染しないためだけでなく、家族や学校など身近な周囲へ感染を広げないためにも予防接種が有効です。

今年度、中学1年生と高校3年生に相当する年齢の人は、平成20年4月から5年間、麻疹・風しん混合ワクチンの定期予防接種の対象です。まだ接種していない人は、早めに接種してください。予防接種の実施医療機関は市のホームページで確認できます。